

# 『明治字典』における朝鮮語子音‘ㄴ’の片仮名転写について

『明治字典』에 보이는 朝鮮語 子音 ‘ㄴ’의 片仮名 転写에 대하여

佐野 三枝子

## 要旨

『明治字典』은 19世紀末葉에 刊行된 字典이다. 各 漢字의 音과 訓을 朝鮮語로 달고 가타카나로 읽는 方法을 表記한 것이다. 『明治字典』에서는 몇 가지 近代 日本 資料와 같이 單語 첫 音節의 ‘ㄴ’을 ‘d, t’로 表記한 例가 보인다. 이것은 高母音 앞에 있어서는 朝鮮語 鼻音 ‘ㄴ’의 條件的 變異音 [ʌn]이 반영된 것, 非高母音 앞에 있어서는 日本語의 ‘d’ 自體가 鼻音性을 同伴한 [ʌd]이었다는 점에 原因이 있다고 할 수 있다.

## 1.はじめに

『明治字典』は19世紀末葉に刊行された字典である。各漢字の音訓を英語と北京語と朝鮮語でも記しており、朝鮮語の場合は、ハングルに片仮名で読み方を振っている。『明治字典』と同時期に刊行され、片仮名でハングルの読み方を振った資料と、19世紀中葉以前の、漢字と仮名のみで朝鮮語を書き留めた資料を通して近代朝鮮語の様相を考察した<sup>1)</sup>際に、全ての資料に単語第一音節の‘ㄴ’を‘d, t, z’で転写している例が見られたが、『明治字典』にも単語第一音節の‘ㄴ’を‘d, t’で転写している例が確認できる。本稿は、子音‘ㄴ’の片仮名転写について検討し、単語第一音節の‘ㄴ’の転写の様相を考察するものである<sup>2)</sup>。使用する資料は大阪府立中央図書館所蔵『明治字典』全十九巻である。

## 2. 『明治字典』について

### 2.1 『明治字典』の成立

『明治字典』は、1885年(明治18)5月から1888年(明治21)7月まで三年ニヶ月に亘って東京の大成館から刊行された<sup>3)</sup>。首巻と巻之一から巻之十八まで、全十九巻、1485ページに及ぶ。当初の予定では、全三十九巻であったが、第18巻の四画で中断し、第19巻、五画の「玄」以後は刊行されなかった。『明治字典』に収録された第18巻四画までの部首と刊行年は次の通

りである。刊行年及び編集者は偶数巻の奥付に記している。

目次

卷之一	卷之六 (1887年4月)	卷之十二 (1887年9月)
一部 丨部 丶部 ノ部	女部 子部 宀部	日部 日部 月部
乙部 丨部 二部 宀部	卷之七	卷之十三
卷之二 (1885年5月)	寸部 小部 尢部 尸部	木部
人部	巾部 山部 彡部	卷之十四 (1887年11月)
卷之三	卷之八 (1887年6月)	欠部 止部 歹部
儿部 入部 八部 冂部	工部 己部 巾部 干部	卷之十五
冫部 冫部 几部 凵部	亠部 广部 廴部 井部	殳部 母部 比部 毛部
刀部 力部 勹部 匕部	弋部 弓部	氏部 气部
匚部 匚部 十部 卜部	卷之九	卷之十六 (1888年3月印刷)
冂部 冂部 厶部 又部	亼部 彡部 彳部 心部	水部
卷之四 (1886年12月)	卷之十 (1887年9月)	卷之十七
口部 口部	戈部 戶部 手部	火部 爪部 父部 爻部
卷之五	卷之十一	爿部 片部
土部 土部 久部 大部	支部 支部 文部 斗部	卷之十八 (1888年7月)
	斤部 方部 无部	牙部 牛部 犬部

編集者は当時の文部省の現職官吏及び東京大学の国学教授が中心で、序文は明治維新の中樞の人物が書いている。題字、序文を書いた人物及び年月、校閲者、編集者は次の通りである。

題字 熾仁 親王 明治17年12月

序文 伯爵大木喬任 明治18年1月、従三位伯爵柳原前光 明治17年12月、正三位侯爵西園寺公望 明治18年2月、西邨茂樹 東京学士院会員 明治17年12月、Jhon A. Bingham 米国公使 Jan. 21st, 1885、辻新次 明治18年1月、小杉楹邨 東京大学教授 明治17年12月、F. Brinkley Dec. 1st, 1884、小野湖山 明治17年 天長節後一日、重野安繹 編修副長官 東京大学教授 明治18年 1月下浣、猪野中行 明治17年12月、李樹廷 大朝鮮開国四百九十三年甲申仲冬之月序

総閲 重野安繹、校閲 中村正直

校閲 国訓 小中村清矩、英語 エフ、プリンクレー、北京語 張磁昉

同輯 猪野中行、国訓 小杉楹邨、英語 邨松守義 (1887. 9から鈴木唯一)、北京語 磯部栄太郎、韓音訓 李樹廷、片岡茂

朝鮮語の音訓を担当した李樹廷については鄭光 (1996) に詳しい。1882年に朴泳孝の非公式随員として来日し、津田仙と交わり、安川亭に洗礼を受けて、韓国人としては日本で初めて

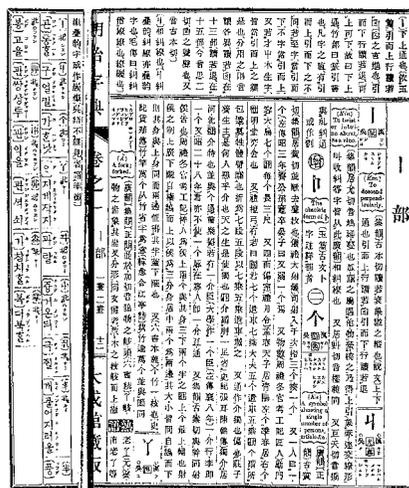
## 『明治字典』における朝鮮語子音 ‘ㄴ’ の片仮名転写について (佐野)

の信者になった。聖書の翻訳など、韓国における新教受容の橋渡しの役割を果たす一方、東京外国語学校で朝鮮語を教えた<sup>4)</sup>が、甲申政変後、本国政府の召還により、1886年5月28日に帰国し、その後、処刑された。片岡茂については第18巻奥付に東京府士族とある他は詳しいことはわからない。また、編集方針、方法等及び李樹廷の帰国後の編集作業等々については記述がない。

字典編撰の動機については英文の序文に記述がある。中国語の学習に適した信頼できる辞典がなかったこと、西洋科学の輸入増大に伴う新造語作製に正確な漢字の知識が必要であること、四海万民の交流の為には言語の障壁を超えなければならず、それには新しい字典が必要であることの三つである。

### 2. 2. 『明治字典』の形式について

『明治字典』は『康熙字典』に基づき、『佩文韻府』の解釈を加味したものである。各漢字に片仮名で日本語の漢音と呉音を、その下に日本語の訓を載せ、その次に、英語で発音と意味を書いている。そして、漢文で解説を施している。各部首の末尾にその部首の漢字をまとめ、朝鮮語の音と訓をハングルで付し、その右側に片仮名で発音を振っている。また、各漢字の下に「北」の字を書き、圈点で四声を表わし、その下に北京語の発音を片仮名で記録している。なお、片仮名の表記は旧仮名遣いによるものである。



卷之一 | 部12張表と同裏の朝鮮語の音訓部分

### 3. 朝鮮語の子音 ‘ㄴ’ の片仮名転写について

単語第一音節の ‘ㄴ’ を ‘d, t’ で転写した例を検討するにあたり、まず、1巻から18巻までの、初声 ‘ㄴ’ とそれに続く母音の片仮名転写の様相を整理する。ただし、全ての用例は附録に提示する。

#### 3. 1. 初声 ‘ㄴ’ とそれに続く母音の片仮名転写の様相

‘ㄴ’ は ‘ナ na、ラ ra、ナア naa、ラア raa、ナー na-、ナーア naa-、ダア daa、ダー da-、ドー do-、タ ta、タア taa’ と転写し、‘ㄴ’ は ‘ナ na、ナア naa、ナー na-、ノー no-、タ taa’ と転写した。‘ㄴ’ は ‘ニヤ niya’ と転写したが、1例のみである。‘ㄴ’ は ‘ノヲ nowo、ノヲウ nowou、ヌヲ nuwo、ノ no、ロ ro、ノー no-、ロー ro-、ネウ neu、イ i、ド do、

ドー do-、トー to- と転写し、‘녀’ は ‘ニヤウ niyau、ニヨ niyo、ニヨウ niyou、ニヨー niyo-、エウ eu、イヤウ iyau、イヨ iyo、イヨー iyo-’ と転写した。‘노’ は ‘ノ no、ノウ nou、ノー no-、ラウ rau、ト to’ と転写し、‘뇨’ は1例のみで ‘ニヨー niyo-’ と転写している。‘누’ は ‘ヌ nu、ヌウ nuu、ヌー nu-、ヅ du、ヅー du-、ツツー tutu-、シユー syu-’ と転写し、‘뉴’ は ‘ニヨー niyo-、イユー iyu-’ と転写した。‘느’ は ‘ヌ nu、ヌウ nuu、ノ no、ヅ du、ヅウ duu、ツツウ tutuu、ダ da’ と、‘니’ は ‘ニ ni、リ ri、イ i、ニー ni-、リー ri-、イー i-’ と転写している。

‘내’ は ‘ナイ nai、ライ rai、ナアイ naai、ナヤ naya’ と ‘내’ は ‘ナイ nai、ライ rai、タイ tai、ナ na’ と転写した。‘내’ は ‘ヌイ nui、ヌーイ nu-i、ヅー du-’ と転写し、‘노’ は ‘ノイ noi’ と転写した。‘네’ は ‘ノイ noi、ロイ roi、ネ ne’ と、‘네’ は ‘ニエー niwe-、ネー ne-’ と転写している。

‘ㄴ’ とそれに続く母音の片仮名転写の様相を調べると、簡単な綴りの間違いがあること、一貫性がないことがわかる。

まず、\*1~\*7は、朝鮮語またはそれに対応する片仮名転写の単純な誤記である。たとえば、‘쯔、ソ、ラ、ワ、ヌ、ヲ’ 等、類似している字形を誤った例であるが、\*1 ‘짚난우리 (三三二オ)’ の ‘wa ワ’ と \*8、\*9 ‘涼셔늘 siyauworu (三三二オ) 晷그늘 kuuworu (十二三一オ)’ の ‘wo ヲ’ は、それぞれ、朝鮮語 ‘소리, 셔늘, 그늘’ から判断して、‘ソ、ヌ’ の誤りである。\*2 ‘韓향낭 hi nagu (八三一ウ)’ は ‘향’ に対する片仮名表記が一部なく、\*3 ‘罌돌날 noruraru (四八一ウ)’ の ‘ノル’ は ‘トル’ を、\*6 ‘夷동녁되 toguniyokuito (五七〇オ)’ の ‘イト’ は ‘トイ’ を、そして、\*5 ‘杉잇자나무 ituka-na-mu (十三一一〇オ)’ は朝鮮語 ‘ㅍ’ を ‘ス’ と誤ったものである。また、\*4 ‘圃나리동산 na-ra-togusan (四九四オ)’ も朝鮮語と片仮名転写が一致しておらず、\*7 ‘夕 tiyo-niyoku 적녁 (五五五ウ)’ は ‘저녁’ の文字を見誤ったものであると思われる。

次に、転写方法である。まず、母音の長音表記は、同じ母音または別の母音を重ねるものと、長音符号 ‘ー’ を用いるものに分けられる。たとえば、‘ㅏ、ㅓ’ の場合は ‘アア aa’ と ‘アー a-’ である。‘ㅏ’ では、同じ母音を重ねる方法、すなわち ‘ナア naa’ という表記は8~10巻、16~18巻に58例見られ、長音符号 ‘ー’ を用いる方法、すなわち ‘ナー na-’ という表記は、2~4巻、6~9巻、12~14巻に80例見られる。また、‘ナアー naa-’ という表記も4巻、10巻、13巻に7例見られる。ところで、‘ㅏ’ に対して、‘余、儂 (2巻)、吾 (4巻)、我 (12巻)’ は ‘ナ na、ナアー naa-、ナア naa’ と三通りに転写している。‘ㅓ’ では、‘ナア naa’ は10巻、16~18巻に、‘ナー na-’ は3巻、5~6巻、8巻に、共に8例見られる。

‘녀’ では、‘ノヲ nowo、ノヲウ nowou’ という表記は2巻のみにそれぞれ5例と1例あり、‘ノー no-’ という表記は5~6巻、16巻に15例ある。‘뇨’ では ‘ノウ nou’ が2巻、4巻、6~7巻、9巻、11巻、13巻、18巻に18例、‘ノー no-’ が2~4巻、6巻、8巻、11巻に9

例見られる。‘ㄴ’ に用いられた ‘ㄴヲ (ウ) nowo (u)’ という表記はないが、これは、‘ㄴ’ と ‘ㄷ’ の発音の違いを表わすために使い分けたのであろう。‘ㄴ’ では ‘ニヤウ niyau’ が 2～3 巻、8 巻に 6 例あり、‘ニヨー niyo-’ が 3 巻、6 巻、8～10 巻、13 巻、18 巻に 12 例見られる。また、‘ㄴ’ を脱落させた ‘イヨー iyo-’ が 10 巻、16～17 巻に 5 例見られる。‘ㄷ’ は ‘ニヨー niyo-’ という表記が 6 巻、16 巻に 1 例ずつ見られる。

‘ㄴ’ では ‘ヌー’ という表記が 4 巻、6 巻、10 巻、16～18 巻に 14 例、‘ヌウ’ という表記が 2～3 巻に 7 例見られる。‘ㄷ’ は ‘ヌウ’ が 13 巻に 1 例あり、他は ‘ヅウ、ツツウ’ が 12 巻と 13 巻に 1 例ずつ見られる。

‘ㄴ、ㄷ’ は母音を重ねる表記が後半の巻に多く、‘ㄴ、ㄴ、ㄴ’ は前半の巻に多い。‘ㄷ’ は両表記が用いられる巻も多い。全体的には長音符号を用いて表記した例が多いが、母音により若干傾向を異にするため、一定の特徴を明らかにすることは難しい。資料全体について文字の転写方法を検討する必要がある。

次に、流音化と鼻音化の表記である。流音化を発音通りに転写している例は 3 巻刀部から 4 巻、6～7 巻、9～12 巻、16 巻、18 巻に見られ、24 例ある。鼻音化の場合は ‘ㄴ+ㄴ’ の例で、17 巻火部にのみ 14 例ある。また、この 17 巻には、‘熾불니러날 pu-ruiro-naaru’ のように発音通りに転写し、‘니러날’ の ‘ㄴ’ 脱落を表わす例も見られる。一方、各音節の発音に忠実に転写している例は、流音化の場合、出版期間の前半に出された 1～4 巻に 13 例ある。2 巻の ‘依날날 narunairu’ は 18 巻では ‘猥날날 narurairu’ と発音通りに転写しており、他にも同様の例が見られる。鼻音化の例は 1～3 巻、6 巻、13 巻、17 巻に 9 例ある。‘ㄴ+ㄴ’ の例は 13 例で、2～3 巻、5 巻、8 巻、12～13 巻、18 巻に、‘ㄷ+ㄴ’ は 13 巻に 1 例のみある。流音化と鼻音化についても、傾向を異にしはするが、文字通りに転写しているものが多い。そして、最終回に出版された 17 巻に実際の発音通りに転写したものが多数あることから、初期に出版された巻との違いが現われていることがわかる。

先に述べたように、三年二か月で全十九巻が出版されたが、前半に出版されたのは巻之四までであり、李樹廷の帰国後 7 か月経っている。この事情と誤記や転写方法の問題に何らかの係わりがあるのか、編者と編集の経緯を調べ、漢字音、朝鮮語と日本語の母音、片仮名遣いの問題等を明らかにすることが必要である。

### 3. 2. 単語第一音節の子音 ‘ㄴ’ を ‘d、t’ で転写している例の検討

単語第一音節の子音 ‘ㄴ’ を ‘d’ で転写している例は 20 例、‘t’ で転写している例は 7 例である。

#### ① 子音 ‘ㄴ’ を ‘d’ で転写している例

ㄴ 도 do- 昊날을 do-ruru (十二30ウ)

ㄴ 도 do 四넉 doku (四94オ) 板날 doru (十三113オ) 瀚날불 dorupu-ru (十六117ウ)

ドー do- 汝너 do- (十六113ウ) 爾 (十七50ウ) 擔너를 do-ruru (五43ウ)

拓널널 do-ruriru (十114ウ) 廣널을 do-ruru (八63オ)

洪님을 do-puru (十六114オ) 浩 (十六114ウ) 溥 (十六115ウ)

누ヅ du 壓눌 duru (五44ウ)

ゾー du- 垂누릴 du-riru (五43ウ) 寢누을 du-u-ru (六85ウ)

ニヅ du 於늘 duru (十一41オ) 獲늘근잔나비 durukuntusaannaabi- (十八47ウ)

ヅウ duu 晩느즐 duuduru (十二30ウ)

ダ da 感느길 dakukiru (九111オ)

뉴ゾー du- 懺뉴우칠 du-iu-tiru (九112ウ)

②子音 ‘ㄴ’ を ‘t’ で転写している例

나タ ta 嗔 [남] tamu (四82オ)                      タア taa 潜 [남] taagu (十六114ウ)

ㄴ 타아 taa 狻늘을 taaruru (十八46オ)

너トー to- 幅너뛰 to-bui (八31ウ)                      ㄴ 토 to 侑누을 touru (二75オ)

누ツター tutu- 殼 [누] tutu- (六57オ)

니ツツウ tutuu 柞느름나무 tutuurumunaa-mu- (十三110ウ)

単語第二音節以下の ‘ㄴ’ を ‘d’ で転写している例が3例ある。高母音の ‘누’ を ‘ゾー du-’ で転写している ‘姉ヌ누에 matudu-woi (六44ウ)’ と非高母音 ‘나’ を ‘ダア daa’ で転写している ‘擯큰슈날 tukunshyu-daaru (十八47オ)’ と ‘ダー da-’ で転写している ‘瞳히도나을 haitouda-uru (十二31ウ)’ である。また、高母音 ‘누’ を ‘シユー syu-’ と転写した ‘孰 [누] syu- (六57オ)’、単語第二音節以下の非高母音 ‘니’ を ‘タイ tai’ と転写している ‘孿쌍니 sagutai (六57オ)’ もある。

ところで、同義異字を各々 ‘d、n’ で転写しているが見られる。‘汝너 do- (十六113ウ)’ と ‘你너 neu (二74オ)’、‘悔뉴우칠 nu-iu-tutiru、懺뉴우칠 du-iu-tiru (九112ウ)’ は同じ張に見られる。そして、単語第二音節以下の例であるが、‘姉ヌ누에 matudu-woi、姐 matunu-woi (六44ウ)’ である。また、‘ㄴ’ を無声音 ‘t’ で転写している例が7例あり、その中に漢字音を転写したものが三例ある。日本語は清濁を区別することから考えると、これらも ‘d’ で把握される筈である。しかし、清濁表記が徹底していないこと、『明治字典』に簡単な綴りの誤りがあること、転写方針が一貫していないことから判断して、清濁表記の不正確さによるものであると考える<sup>5)</sup>。

本稿では『明治字典』の全ての子音について検討してはならず、また、編者及び編集経緯も詳らかではないため、断言することはむずかしいが、『明治字典』には筆者が以前検討した19世紀の資料で確認した例と一致するものも見られ、朝鮮語 ‘ㄴ’ についての何らかの事実を伝

えるものと考えられる。

宋敏 (1986: 37-39) は、17世紀の日本資料の研究において、朝鮮語の鼻音 ‘ㄴ、ㄹ’ が、高母音の前で ‘b、d’ で転写されるのは、朝鮮語の ‘ㄴ、ㄹ’ に条件的変異音 [ʰn]、[ʰm] があつたことを、日本人が聴覚的に認知していたことが反映されたものであると述べている<sup>6)</sup>。これは19世紀の資料である『明治字典』においても同様であると考ええる。また、『明治字典』には、単語第一音節の高母音の前の ‘ㄴ’ を ‘d’ で転写している例より、‘吳날을 do-ruru、四넉 doku’ など、単語第一音節の非高母音の前の ‘ㄴ’ を ‘d’ で転写している例が多いが、このような例については、日本語の音声 ‘d’ 自体に現われた鼻音性資質の干渉に因るものとしている<sup>7)</sup>。日本語の有声子音 ‘b、d、z、g’ は、通時的に鼻音性を同伴した [ʰb、ʰd、ʰz、ʰg]、または、[˘b、˘d、˘z、˘g] であつたと推定されており、また、‘m ~ b、n ~ d、n ~ z、ŋ ~ g’ のような同器官音相互間の通時的变化や共時的、方言的交代が多様に観察される<sup>8)</sup> ことから、非高母音の前の ‘ㄴ’ までも ‘d’ で転写する場合があつたであろうと述べている。当時の編集担当者が鼻音 ‘ㄴ’ をそのように把握し、‘ㄴ’ の転写に ‘d’ を対応させたのではないかと考える。今後、転写の全容を調べる中で、漢字音との関係、転写方針、転写方法の差異の問題、綴りの正確さの問題なども考慮し、検討して行きたい。

#### 4. 19世紀及び20世紀の日本資料に見られる例

『日韓善隣通語』(1880) は『明治字典』の数年前に刊行された会話書であるが、ハングルに片仮名を付している。この資料にも、高母音 ‘ㄴ、ㄹ’ を ‘z’ で、非高母音である数詞 ‘四넉、네’ を ‘d’ で転写している例が確認できる。また、19世紀初葉の『朝鮮人見聞書』と19世紀中葉の『朝鮮聞見録』にも、数詞 ‘四넉、네’ を ‘d、t’ で転写している例が確認できる。なお、20世紀初葉の資料の例も参考資料として示す。島井浩<sup>9)</sup> 著、『實用日韓會話獨學』(1905) は、釜山で出版された。「會話」部に疑問詞 ‘누구、누가’ を ‘du’ で転写している例のみ見られる。また、満鮮文興社編、『鮮文(諺文)解語自在』(1929) も単語と会話文例を示したものであるが、‘ㄴ’ は全て ‘n’ で転写している。他の資料で ‘d、t’ で転写している単語で、『鮮文(諺文)解語自在』にも収録されたものを示す。

##### (1) 19世紀の資料

『朝鮮聞見録』    ㄴ do 022 四百 donniyagu

『朝鮮人見聞書』    네 toi 063 四 toi    dei 014 ..年四十四 ..ni nihon dei

『日韓善隣通語』

누 zu 누에, 누비 (上12 앞) 누른 (下9 뒤) 누이 (下20 뒤)    느 zu 능금 (下18 앞)

눈 (上13 앞) 눈히 (下4 앞 abc <6>) 눈기 (下14 앞)

너 de - 너근 (上27 앞) 너슈디 (上25 앞) 너자 (上25 뒤) dotu 너분 (上24 앞)  
do 너분중 (上26 앞) 너량 (上24 뒤) do - 너돈 (上24 앞)  
네 doi 네 (上23 앞) doetu 네치손가락 (下27 앞)

(2) 20世紀の資料

(1) 『實用日韓會話獨學』

① ‘ㄴ’ を ‘d’ で転写している例 (括弧内の数字は頁数である。)

誰レデスカ 누구요 duku-yo (69) 誰カ私ヲ呼ブノデスカ 누가날부르요 du-kanaruhuruo (70)  
誰カ表ニ来マシタ 누가츠자왓소 dukatiyadiyawatuso (75) 誰ダカ往テ見口 누군지가보와라  
dukunzikabowara (75) ソコニ居ノハ誰デスカ 거기잇는사람이누구요 kokiinnunsaramidukusiyo  
(77) 君 (アナタ) 誰デスカ 당신은누구시오 tagusi-nunbu\*kusiyo (77) (\*は du の誤りと思われる。)  
君 (アナタ) ノ名ハ何 (ナニ) ト仰イマス카 공에성명이누구라고하시요 koogusogumiyo-gidukura  
koha-siyo (77) 其事ヲ誰カ君ニ申マシタ카 그스정을누가말슴히엿소 ku-saziyoguurudukamarus  
umuha-siyotuso (77) 誰ガ育テマス카 누가길너줍닛가 dukakirurotiyutiyo (93) 誰デモ人民ニ  
撰レテ成ノデス 누구던지빅성이, 갈희지요 dukutondibekusogi-, karuhuitiyo (100) 誰デモ戰  
争ニナルト思テイマシタ 누구던지싸홈이될줄알앗소 dukutondisahomi-terudiyuruaratuso (158)

② ‘ㄴ’ を ‘n’ で転写している例

誰様 (ドナタ) デゴザイマス카 누구시라하시요 nukusiraha-siyo (90)  
誰ノ家カ 뒤집이나 nuitibi-niya (134)

(2) 『鮮文 (諺文) 解語自在』

누 妹누의 nui (20) 蠶누에 nuwe (56) 誰누가 nuka (78) 雪누 nu-n (16) 目누 nun (23)  
ㄴ 林檎능금 nugukumu (49、54)  
너 御前너 newe (29) 四ツ넛 noi (2) 四尺넛자 noukutiya (25)

『日韓善隣通語』では、高母音の前の例である ‘누、ㄴ’ を ‘zu’ で転写している。‘zu’ という表記はこの資料にのみ見られる。‘du’ で転写している音を調べると、‘드’ 4例と ‘저’ 1例である。そこで、19世紀は音としての ‘zu、du’ は区別されないことから、‘누、ㄴ’ を表記する文字として ‘zu’ を対応させたと考え<sup>10)</sup>。朴基永 (1999: 5) によると、‘넙을、눈물、능금’ など、後に鼻音が来る場合は『明治字典』では da 行音で転写していない<sup>11)</sup> が、『日韓善隣通語』では、先に見たように、‘눈、능금’ は ‘zu’、‘너량’ は ‘do’ で転写している。

『日韓善隣通語』と『實用日韓會話獨學』の編者は、朝鮮語に精通しており、釜山に住んでいたことがある<sup>12)</sup>。『日韓善隣通語』、『朝鮮聞見録』、『朝鮮人見聞書』には慶尚道の方言の影響を受けたと考えられる例も確認できる。『鮮文 (諺文) 解語自在』については編者及び編集経緯を明らかにし、各資料の方言の問題について考察することが必要である。

## 5. 終わりに

これまで、子音 ‘ㄴ’ の片仮名転写の様相を検討し、単語第一音節の ‘ㄴ’ の転写について考察してきた。鼻音 ‘ㄴ’ が単語第一音節の高母音の前で [ʰn] で実現するのは、単語第一音節の高母音の前の ‘ㄴ’ の発話現実に対する日本人の聴覚的認知が明確に反映されていること、高母音以外の音の前の ‘ㄴ’ を ‘d、t、z’ で転写している理由は、日本語の ‘d’ 自体が鼻音性を同伴した [ʰd] であったことに一次的原因があったことと考えられる。まず、編集の経緯と ‘ㄴ’ 以外の子音の片仮名転写を調べて全容を明らかにし、『明治字典』と同時代の日本資料の片仮名転写も参考にして、子音 ‘ㄴ’ の片仮名転写と方言、その他の問題について検討することにより、近代朝鮮語の様相を考察することが今後の課題である。

## &lt;附録&gt; 朝鮮語の子音 ‘ㄴ’ の片仮名転写

初声 ‘ㄴ’ とそれに続く母音を片仮名で転写した例を示す。用例は訓令式ローマ字表記に従って表わす。漢字音の場合は [ ] を付す。漢字の訓とその片仮名転写を同じくする用例は、初めのもののみ表記する。なお、‘ツ、ン、ク’などを拗音表記のように若干小さくして右下に書き、終声や激音の表記に使用しているものや、長音 ‘アa’の後の ‘アa’を小さく右下に付したものもあるが、全体に及ぶものではないので他の文字と同じ大きさで記する。用例の次に巻数、張数を括弧内に示すが、オは表、ウは裏の略号である。

## ① ‘ㄴ’ &lt;234例&gt;

ナ na 余나 na (二七四ウ) 儂 (二七七オ) 𪛗 [나] (三二一ウ) 泔나는소리 nanunso-ri, 涸nanunwa\*ri (三三二オ) 儂나라 nara (二七七ウ) 𪛗나라일홈 narairuhomu (一二六オ) 佻 (二七四ウ) 儂나른할 narunharu (二七七ウ) 佻나아가기어려울 naakakihowohawouru (二七六オ) 𪛗 나아갈 naakarū (一二六オ) 儻 (二七六オ) 津 (三三二オ) 予나줄 nazuuru (一二九オ) 低나줄 naturu (二七四ウ) 櫛나질 natiru (二七七ウ) 𪛗나팔 neparu (四八一オ) 洛 [낙] naku (三三二オ) 侘낙심홀 nakusimuharu (二七五オ) 檻난간 nangan, 櫛 (十三三113ウ) 侘난장이 nantiagui (二七五オ) 儻 nantiagui (二七六オ) 儻 tintiagui (二七七オ) 兪날 naru (二七三ウ) 兪 (三一一ウ) 出 (三三八ウ) 日 (十二三〇オ) 依날닐 narunairu (二七四ウ) 猥날닐 narurai (十八四六ウ) 儻 [남] (二七七ウ) 南 [남] namu (三九四オ) 喃 [남] (四八二オ) 丙남덕 namueuku (一一一ウ) 丙 [남] nabu (三一一ウ) 媪 [남] (六四四ウ) 剗낫 natu (三六四ウ) 晝낫 natu (十二三〇ウ) 楸낫다날 natuta-naru (十三三112オ) 倬낫타날 natututanaru (二七六オ) 囊 [낭] nagu (四八三オ) 壤 [낭] (五四四ウ) 娘 [낭] (六四五オ) 囊 [낭] (十二三1ウ) 讓 [낭] (十六117オ) 囊낭시 nagusi- (十二三1ウ) 儻낭 피 할

nagutuhaiharu (二七六才) 併물나단 murunatan, 併스오나을 saonauru, 併클나인어란 tukurunain.iran (二七四才) 倅놀날 norunaru (二七六ウ) 倅 (四八二才) 倅 (四八二ウ) 倅셔날 tutuwonaru (二七四才) 倅 duwounaru (二七八才) 倅 to-naru (四八二ウ) 倅만날 manaru (五四九ウ) 倅맛날 matunaru (二七五ウ) 倅못날 muutunaru, 倅 mutunaru (二七六才) 倅문츄날 mu-ntiyainaru 倅 (十一二三ウ) 倅부등깃날 putu-gukitunaru (三三五才) 倅빚날 pitunaru (一一一ウ) 倅 (二七六ウ) 倅 사오날 saonaru (二七六才) 倅소사날 sousaanaru (一六二一三ウ) 倅아기날 aginaru (六四五才) 倅연괴날 iyonguinaru (一七四四ウ) 倅 외나무다리 oinamuutari (二七四才) 倅의나모리 woinamoutari (九二四ウ) 倅빚날 pitunaru (三一一ウ) 倅 (一二三二才) 倅썩여날 baiiyaunaru, 倅 (二七六才) 倅 (二七六ウ) 倅동남방 togunamubagu (八八才) 倅참날 할 tuti yamunamu haru (二七七才) 倅참날할 (二七七ウ) 倅용납할 yogunabuharu (三二一ウ) 倅 (三三三ウ) 倅며날할 megunaguharu (一二四一ウ) 倅향날 hi<sup>2</sup> nagu (八三一ウ)

ラ ra 倅돌날 no<sup>3</sup>ruraru (四八二ウ)

ナア naa 倅나 naa (一三二ウ) 倅 [나] (一三二ウ) 倅 [나] (九二二ウ) 倅 [나] (一三二ウ) 倅 [나] (一三二才) 倅나라일음 naaraai-rumu (一八四七才) 倅나아갈 naaakaaru (一六二一六才) 倅나을 naauru (九二二才) 倅 [나] naaku (一三二才) 倅낙슈 naakusiyu- (一六二一四才) 倅 [난] naan (九二二才) 倅 [난] (九二二ウ) 倅 [난] (一七四三ウ) 倅 [날] naaru (一三二ウ) 倅날날 naari-ru (一三二ウ) 倅날날 naariru (一六二一六才) 倅감은잔나비 kaamuntusaannaabi- (一八四六才) 倅 [남] (一六二一五ウ) 倅 [남] naabu (一三二才) 倅늘근잔나비 durukuntusaannaabi- (一八四七ウ) 倅스오나을 saaunaau-ru 倅, 倅 (一八四六才) 倅 (一八四六ウ) 倅스오나을 saaunaauru 倅 (一八四七才) 倅소나기 sounaaki (一六二一四ウ) 倅음날할 umnaanharu (一六二一五才) 倅잔나비 tusaannaabi (一八四六才) 倅그름이니러날 kurumiiro-naaru (一六二一五才) 倅 (一六二一六才) 倅돌아날 taaraanaaru (一八四六才) 倅뽕이날 daminaaru (一六二一六才) 倅불니러날 pu-ruiro-naaru (一七四四才) 倅빚날 pinnaaru (一七四二ウ) 倅, 倅, 倅, 倅, 倅, 倅, 倅, 倅 (一七四三ウ) 倅, 倅 (一七四四才) 倅, 倅, 倅 (一七四四ウ) 倅소사날 sousanaaru (一六二一三才) 倅, 倅 (一六二一五ウ) 倅 sousaanaaru 倅 (一六二一四ウ) 倅 (一六二一五才) 倅 (一六二一六才) 倅 (一六二一七才) 倅 sonsaanaaru (一六二一七ウ) 倅향날 haigunaagu (八六二才)

ラア raa 倅놀날 noururaaru (九二二ウ)

ナー na- 倅나 na- (三二一ウ) 倅나 (四八二ウ) 倅 [나] (六四五才) 倅나 (一二四一ウ) 倅 [나] (二七五才) 倅 [나] (一三二一三才) 倅나그네 na-ku-noi (一一四一才) 倅나라 na-ra- (四九四才) 倅나리동산 na-ra-<sup>4</sup> togusan (四九四才) 倅나막신 na-makusin (七二六ウ) 倅나무 na-mu- (六四六才) 木 (一三二一〇才) 倅, 倅, 倅 (一三二一一才) 倅, 倅, 倅 (一三二一一ウ) 倅, 倅, 倅 (一三二一二才) 倅 (一三二一二ウ) 倅 (一三二一三才) 倅, 倅, 倅 (一三二一三ウ) 倅 (一三二一四才) 倅나무마를 na-mu-ma-ruru (一三二一二ウ) 倅나무무 na-mu- (一三二一一ウ) 倅나무블 na-mu-puru (四八二才) 倅나무뜰 (一三二一三ウ) 倅나무신 na-mu-sin (七二六才) 倅 (一三二一三才)

標 (十三114オ) 剩나물 na-muru (三64ウ) 圃나물쌈 na-murupatu (四94オ) 暹나아갈 na-a-karu (十二31オ) 俺나알 na-aru (四82オ) 嵐나을이 na-o-ri- (七60オ) 响나제 na-zei (十二30ウ) 殘남을 na-muru (十四24オ) 價가리나무 ka-raina-mu- (十三113ウ) 娼간나희 kannahui (六45オ) 椶계수나무 ke-siyu-na-mu- (十三111ウ) 椶구분나무 kubunna-mu- (十三112オ) 椶노나무 nouna-mu- (十三111オ) 椶느름나무 nuurumuna-mu-, 椶닥나무 takuna-mu- 穀(十三112オ) 唐당나라 taguna-ra (四82オ) 椶동박나무 togupakuna-mu- (十三112オ) 屢쟁나무 poguna-mu-, 椶쟁나무실 poguna-mu-siru (十三113ウ) 椶사으나을 saunauru (九110ウ) 奴스나희종 sa-na-huitiyogu (六44オ) 椶스오나을 sawouna-uru (十三111オ) 椶스우나을 sa-u-na-uru (十三112オ) 暴스으나을 sauna-uru (十二31オ) 椶섭나무 sobuna-mu- (十三111ウ) 宋송나라 soguna-ra- (六85オ) 椶옷나무 wotuna-mu- (十三112ウ) 椶은나라 onna-ra (四81ウ) 杉잇자<sup>5</sup> 나무 ituka-na-mu- (十三110オ) 椶즈근나무 tiya-kunna-mu- (十三112オ) 椶젓나무 tusotuna-mu- (十三113ウ) 歴지날 tiina-aru (十四24オ) 椶진나라 tinna-ra (十二30ウ) 椶춤나무 tiyamuna-mu- (十三112オ) 椶 (十三113オ) 椶 (十三114オ) 柏츄박나무 tiyukupaakuna-mu- (十三110ウ) 椶향나무 hiyaguna-mu-, 椶황벽피나무 huwagubiyokupi-na-mu- (十三113ウ) 椶회화나무 hoihuwa-na-mu- (十三112ウ) 椶 (十三113ウ)

ナア- naa- 椶나 naa- (四81ウ) 椶나무일홈 naa-mu-i-rumu, 椶계슈나무 ke-siyu-naa-mu-, 椶머귀나무 mo-ku-inaa-mu- (十三111オ) 斤날 naa-ru (十一31オ) 揚날닐 naa-riru (十115ウ) 椶남목 naa-mu-moku (十三110ウ)

ダア daa 椶근슈날 tukunsyu-daaru (十八47オ)

ダー da- 椶희도나을 haitouda-uru (十二31ウ)

ドー do- 椶날을 do-ruru (十二30ウ)

タ ta 椶 [남] tamu (四82オ)

タア taa 椶 [남] taagu (十六114ウ)

② ‘ㄴ’ <22例>

ナ na 分ㄴ날 nanaru, 刃ㄴ날 naru (三64オ) 勇ㄴ날 narurairu (三64ウ) 天하날 ha-naru (五70オ)

ナア naa 津ㄴ루 naaru- (十六114オ) 胖ㄴ홀 naanuru (十七58オ) 猖ㄴ닐 naarurairu, 猖잔ㄴ비 saannaabi-, 猴 (十八46ウ) 猿 tusaannaabi- (十八46ウ) 獼 (十八47オ) 捌ㄴ홀 naanuru (十115オ)

ナー na- 判ㄴ날 na-naru (三64オ) 卑ㄴ즐 na-zuru (三94オ) 塌 (五43ウ) 庠 (八62ウ) 婦머ㄴ리 me-na-ri- (六45オ) 媳 (六45ウ) 嬪 (六46オ) 婚머ㄴ리집 me-na-ri-tibu (六45オ)

ノー no- 放ㄴ을 no-nuru (十一21オ) 析 (十三110ウ)

タ taa 獫ㄴ을 taaruru (十八46オ)

③ ‘ㄴ’ <1例> ニヤ niya 孃 [냥] niyagu (六46ウ)

④ ‘너’ <41例>

ノヲ nowo 俺가죽너그러을 katiyuukunuwokuruwouru (二75オ) 傲해넌느러질 howoinowomu nuruwoutiru (二77オ)

ノヲウ nowou 傲너그럴 nowoukuruwouru (二77オ) 優넉넉 nowoukunowouku (二77ウ)

ヌヲ nuwo 價넉넉할 nuwokunuwokuharu (二76ウ) 僂셔로일너줄 siyauroirunuwotiyuuru (二76ウ)

ノ no 博널 noru (三94オ) 搏 (十94オ)

ロ ro 峒굴녕 ku-rurogu (七59ウ)

ノー no- 寬너글어을 no-ku-ra-uru (六85ウ) 犯너물 no-mu-ru (十六113オ) 漲 (十六116ウ) 漲널을 no-ruru (十六117ウ) 濟넌을 no-muru (十六114ウ) 溢, 溢 (十六115ウ) 濫 (十六117オ) 激넌을 (十六117ウ) 圮무너질 mu-no-tiru (五43ウ) 壞 (五44ウ) 灌 (十六116ウ) 涉진널 ko-nno-ru (十六114ウ) 渡 (十六115オ) 濟 (十六117オ)

ロー ro- 斑얼넉 o-ruro-ku, 爛 (十一23ウ)

ネウ neu 你너 neu (二74オ)

イ i 懶 [넉] iku (九111オ) 菱넌을 imuru (五51ウ)

ド do 四넉 doku (四94オ) 板널 doru (十三113オ) 瀚널불 dorupu-ru (十六117ウ)

ドー do- 汝너 do- (十六113ウ) 爾 (十七50ウ) 擔너를 do-ruru (五43ウ) 拓널널 do-ruriru (十一14ウ) 廣널을 do-ruru (八63オ) 洪넌을 do-puru (十六114オ) 浩 (十六114ウ) 溥 (十六115ウ)

トー to- 幅넉 to-bui (八31ウ)

⑤ ‘녀’ <35例>

ニヤウ niyau 弼 [녀] niyau (八31オ) 忍 [녘] niyaun, 濂 [념] niyaumu (三32オ) 令 [녕] niyaugu (二74オ) 儻 [녕] niyaugu (二77ウ) 僂용널할 iyoguniyauruharu (二76オ)

ニヨ niyo 年 [녘] niyon (八37ウ) 寧 [녕] niyogu (四82ウ) 南남녘 namuniyoku (三94オ) 東동녘 toguniyoku (十三110オ) 夷동녘되 toguniyokuito<sup>\*6</sup> (五70オ) 積녘 tiyo-<sup>\*7</sup>niyoku (五55ウ) 曆척녘 tiyakuniyoku (十二31ウ) 叮噔녕 tiyoguniyogu (四81オ)

ニヨウ niyou 筭 [녕] niyou (一28オ)

ニヨー niyo- 女 [녀] niyo- (六44オ) 挈 [녀] (十一14ウ) 媯녀스승 niyo-suusugu (六44ウ) 尼녀중 niyo-diyugu (七26オ) 怒 [넉] niyo-ku (九110ウ) 櫻중녀 tusoguniyo- (十三112オ) 欄 (十三113ウ) 棉춘녀 tiyu-niyo- (十三111ウ) 狻북녘되 pu-guniyo-kututoi, 狄 (十八46オ) 獵북녘되 pu-kuniyo-kutoi (十八47オ) 北북녘 puguniyogu (三83ウ) 廉청녘 tiyo-guniyo-mu (八62オ)

エウ eu 招항널 hagueuru (二74ウ)

イヤウ iyau 覓달녀들 taruiyaduru (三21ウ)

イヨ iyo 斂 [넉] iyobu (十一21オ)

イヨー iyo- 熱 [넉] iyo-ru (十七44オ) 忍 [넉] iyo-n (十六114ウ) 捏 [넉] iyo-ru, 捻 [넉] iyo-bu (十115オ) 溼 [넉] iyo-gu (十六117オ)

⑥ ‘ㄴ’ <83例>

ノ no 勞 [노] no (二77オ) 栝노쇼나무 noseuna-mu- (十三110ウ) 邵노플 notupuru (三101ウ) 慍노홀 noharu (九110オ) 侖논 non (二75オ) 啐놀날 norunaru (四82オ) 醜 (四82ウ) 獲놀닐 norurai (十八47オ) 顛놈고밀 nobukomowouru (三25オ) 傀놈홀 nobuhuru (二76ウ) 僑놈홀 nobuhuru (二77オ) 塏 nobuhuru 塏 (五43ウ) 尊 (七7オ) 吻놈홀 nobupuru 岌, 岌, 岌, 岌 (七59オ) 峇, 岷, 峻, 崕, 嶠 (七59ウ) 峯, 嶺, 嶺, 嶺, 嶺 (七60オ) 嶺, 嶺, 嶺, 嶺, 嶺 (七60ウ) 峯놈홀 notupuru (七59オ) 兀놈홀 nopuhuru (二78ウ) 喬놈플 nobupuru (四82オ) 農 [농] nogu (二77オ) 濃 [농] (十六117オ) 傍동노할 togunoharu (二77オ) 託술산노을 suuruzannouru (三25オ) 亶진실노 tinsiruno (一38ウ) 侵침노홀 tutimunoharu (二75オ) 佻홀노단일 harunotaniru (二74ウ) 僮홀노설 horunosowouru (二77ウ) 濃무루녹을 mu-ru-noukuru (十六117オ) 倮시골놈밀 sikorunomu mairu (二76ウ)

ノウ nou 呶 [노] nou (四81ウ) 孥 [노] (六57オ) 猫 [노] (七59ウ) 憊 [노] (九112オ) 溺 [노] (十六115オ) 獠 [노] (十八46ウ) 獠, 獠, 獠 [노] (十八47オ) 梓노나무 nouna-mu- (十三111オ) 敖노닐 nouniru (十一21オ) 囉노리 nourai (四83オ) 獠노로 nourou (十八47オ) 倮노숙홀 nousuukuharu (二75オ) 曝노홀 nouharu (四82ウ) 愴노홀 nouhuru (九111オ) 懼놀날 nouraaru (九112ウ) 愕놀닐 nouairu (九111オ) 枚형노홀 hiyogunouhuru (十三110ウ)

ノー no- 倮 [노] no- (二74オ) 努 [노] (三76オ) 勞 [노] (三76ウ) 奴 [노] (六44オ) 媼 [노] (六45ウ) 帑 [노] (八31オ) 噴노리 no-rai (四82オ) 劫노락홀 no-riyakuharu (三76ウ) 放노홀 no-huru (十一21オ) 歛놀에 no-roi 歌 (十四16ウ)

ラウ rau 尙홀 horurau (六85オ)

ト to 侑놀을 touru (二75オ)

⑦ ‘ㄴ’ <2例>      ニヨー niyo- 黼 [노] niyo- (六46オ) 淖 [노] (十六115オ)

⑧ ‘ㄴ’ <29例>

ヌ nu 嫻눈 nun (六45ウ) 湏눈물 nunmuru, 漼눈싸일 nunzairu (三32オ) 兪눈홀보기 nunhuru boki (一26オ)

ヌウ nuu 僂 [누] nuu (二77オ) 偃누을 nuuuru (二76オ) 僂, 僂 (二78オ) 完눈길홀 nuun kibuhuru (三25オ)

ヌー nu- 獠 [누] (十八47オ) 煩 nu-riyu- (十七43ウ) 爍누류 nu-ru- (十七44オ) 妹아리누에 a-rainu-woi, 姐 matunu-woi (六44ウ) 按누를 nu-ruru (十114ウ) 泗눈물 nu-nmu-ru (十六

114オ) 汎눈물이 썩러질 nu-nmu-rido-rotiru (十六113ウ) 瀉 (十六114オ) 涕눈물 nu-nmu-ru (十六114ウ) 淚 (十六115オ) 啞 [늘] nu-ru (四81ウ)

ヅ du 壓눌 duru (五44ウ)

ヅー du- 垂누릴 du-riru (五43ウ) 寢누울 du-u-ru (六85ウ) 姉및누에 matudu-woi (六44ウ)

ツツー tutu- 穀 [누] tutu- (六57オ)

シュー syu- 孰 [누] syu- (六57オ)

⑨ ‘뉴’ <3例>

ニヨー niyo- 控풍뉴 puguniyo- (十三111ウ)

イユ어 iyu- 扭 [뉴] iyu- (十114オ) 狃 [뉴] (十八46オ)

⑩ ‘느’ <25例>

ヌ nu 凋느른홀 nurunharu (三32オ) 侵느스할 nusutuharu (二76オ) 儻느즈러질 nuzuruwoutiru (二78オ) 仍 [늑] nuku (一73ウ) 於늘 nuru (十114オ) 凌 [능] nugu (三32オ) 橋능금 nugugumu (十三113オ) 傲혜넘느러질 howoinowomunuruwoutiru (二77オ) 篋밧설다는 papusiyaurutanun (三25オ) 佛붓쳐클 틀다호는 putututiyau tukuru tuturutahanun (二74ウ) 尙 흐르는별 hurununpeuru (二74オ) 毋ヲ늘 ka-nuru (六44オ) 麻그늘 kunuru (八62ウ) 榭그늘 kuwanuru (十三113オ) 噎그늘질 kuunurutiru (十二31ウ) 涼셔늘 siyauwo<sup>\*8</sup>ru (三32オ) 乾하늘 hanuru (一26オ) 晷그늘 kuuwo<sup>\*9</sup>ru (十二31オ)

ヌウ nuu 枌느름나무 nuurumunaa-mu- (十三110ウ)

ノ no 凸늑홀 nobuhuru (三38ウ)

ヅ du 於늘 duru (十一41オ) 獲늘근잔나비 durukuntusaannaabi- (十八47ウ)

ヅウ duu 晚느즐 duuduru (十二30ウ)

ツツウ tutuu 枌느름나무 tutuurumunaa-mu- (十三110ウ)

ダ da 感늑길 dakukiru (九111オ)

⑪ ‘니’ <52例>

ニ ni 羸 [니] ni (三21ウ) 匿 [닉] niku (三89ウ) 昵 [닐] niru (十二30ウ) 矐 [닐] (十二31オ) 帝님금 nimugumu (八31オ) 仵다르니 taruni, 他 (二74オ) 不아니 ani (一11ウ) 否아닐 aniru (四81ウ) 弗 aaniru (八84ウ) 未 a-niru (十三110オ) 侏항복지아니홀 hagupokutianiharu (二74ウ) 儻 (二77ウ) 備곱지아니할 koputianiharu (二76ウ) 俐영니홀 iyauguniharu, 佻돌닐 toruniru (二75オ) 羹상닐 siyaguniru (三17オ)

ニー ni- 昵 [니] ni- (四81ウ) 滌 [니] (五43ウ) 尼 [니] (七26オ) 旆 [니] (十一23ウ) 柅 [니] (十三110ウ) 嗣니을 ni-uru, 嗒니즐 ni-duru (四82ウ) 利니홀 ni-haru (三64オ) 帑주머니 tu-mo-ni- (八31オ) 囊주모니 tu-mu-ni- (四83オ)

イ i 慣니글 ikuru (九111ウ) 熟 (十七44オ) 悞니즐 izuru (九110ウ) 匿 [닉] iku (三89ウ) 懼 [닐] iru (九111ウ) 底닐을 iruru (八62ウ) 滄그름이니러날 kurumi-ro-naaru (十六115オ)

滄 (十六116オ) 熾불니라날 pu-ruiro-naaru (十七44オ) 牙송곳니 siyogukon.i (十七60オ)  
樛힘니블 himuiguru (九111ウ)

リ ri 拓닐닐 do-ruriru (十114ウ) 暄말닐 maruriru (十二30ウ) 嘆 (十二31オ) 曬말닐 maaru  
riru (十二31ウ) 卻물닐 mururiru (三101ウ) 滕날닐 naariru (十六116オ)

イー i- 泥 [니] i- (十六114オ) 瀾 [니] (十六117オ) 承니을 i-uru (十114オ) 憾닐을 i-ruru  
(十117ウ) 氏 (十五26ウ) 洵 (十六114オ)

リー ri- 斥물니칠 mururi-tiru (十一31オ) 播날닐 naari-ru (十116ウ)

⑫ ‘내’ <24例>

ナイ nai 俚 [내] nai 衲 [내] (二74オ) 内 [내] (三11ウ) 川 [내] (七61ウ) 簪 [내] (十二  
31オ) 柰 [내] (十三110ウ) 禮내버들 naipo-tuturu (十三113オ) 殞내암새 naiyamusai (十四  
24オ) 獨냄시 naimusai (十八46ウ) 焠향내 hiyagunai (十七43オ) 甯들넬 turunairu (四81オ)  
媵보넬 ponairu (六45ウ) 歎분넬 pu-nnairu (十四16ウ) 吒성넬 siyogunairu, 胸슴넬  
su-munairu, 咐 siyumunairu (四81ウ)

ライ rai 勇늘넬 narurairu (三76ウ) 啣들넬 tururairu (四82オ)

ナアイ naai 河내 naai (十六113ウ) 溪시내 si-naai (十六115ウ) 攝겹넬 ko-bunaairu, 憺성  
넬 so-gunaairu, 慥 (九112オ)

ナヤ naya 廬냄시 nayamusai (八62ウ)

⑬ ‘니’ <27例>

ナイ nai 烟니 nai (十七43オ) 煙 (十七43ウ) 來 [니] nai (二74ウ) 儼 [니] (二78オ) 嗅니  
마틀 naima-turu (四82オ) 冷 [녕] naigu (三32オ) 冷 [녕] (十六114オ) 依날닐 narunairu  
(二74ウ) 兌달닐 tarunairu (三8ウ) 嗽들넬 turunairu (四81ウ) 僖모양닐 moyagunairu (二  
76オ) 悱분닐 punnairu (九110ウ) 憤분넬 pu-nnairu (九111ウ) 儼성닐 suwogunairu (二76  
オ) 嗔성닐 sogunairu (四82ウ) 狖성닐 so-gunairu (十八46オ) 獯 (十八47オ) 儼세닐  
senairu (二77オ) 嘘슴넬 siyumunairu (四82ウ) 歎슴넬 sumunairu (十四16ウ) 谷입김닐  
ibukimunairu (三17オ)

ライ rai 猻날닐 narurairu, 狷늘넬 naarurairu (十八46ウ) 獯늘넬 norurairu (十八47オ) 嚙  
들넬 tururairu (四83オ)

タイ tai 學쌍니 sagutai (六57オ)

ナ na 攔분닐 pu-nnaru (十117ウ)

⑭ ‘늪’ <3例>

ヌーイ nu-i 悔늪우칠 nu-iu-tutiru (九112ウ)

ヌイ nui 殃살은늪 saarounui (八84ウ)

ヅー tudu- 懺늪우칠 du-iu-tiru (九112ウ)

⑮ ‘뇌’ <9例>

ノイ noi 惱 [뇌] noi (九110ウ) 惱, 倅 [뇌] (二75オ) 偏 (二77ウ) 僂 (二78オ) 瀨 [뇌]  
(三32ウ) 掇 (十114ウ) 倅 (十115オ) 駑쇠뇌 soinoi (八84ウ)

⑯ ‘네’ <5例>

ノイ noi 旅나그네 na-ku-noi (十一41オ)

ロイ roi 喧들넬 tururoiru (四82オ) 嘈들넬 tururoiru (四82ウ) 姑 (六44ウ)

ネ ne 同아희굴네 ahuikuurune (三21ウ)

⑰ ‘네’ <2例>

ニエー niwe- 昔네 niwe- (十一30ウ)

ネー ne- 常상네 siyagune- (八31ウ)

注

- 1) 佐野 (2001) 参照
- 2) 『明治字典』の片仮名転写については、鄭光 (1982) の重母音と子音 ‘ハ、ス、ス’、朴基永 (1999) の母音 ‘ㄷ, ㄷ’ と重母音 ‘ㅁ, ㅁ, ㅁ’、濃音、激音についての研究がある。単語第一音節の ‘ㄷ’ を ‘d, t’ で、‘ㄹ’ を ‘b, h’ で転写した例についての研究は、前間 (1909)、安田 (1964)、宋敏 (1986)、李基文 (1988)、李康民 (1993)、鄭光 (1996)、佐野 (1996、2001)、岸田 (1999) 参照。
- 3) 『明治字典』の成立については鄭光 (1982) 参照。
- 4) 『東京外国語学校一覽明治十六、十七年』と『同 明治十七、十八年』の「長教諭教員及属員」の項目に教員として李樹廷の名前が確認できる。また、東京外国語学校編、『東京外国語学校沿革』(昭和七年)の第五章「東京外国語学校設立後の沿革」附三「明治六年より同十七年に至る職員一覽」の外国人教師の項により、就職年月が明治十六年八月であることがわかる。
- 5) 宋敏 (1986 : 38)、土井忠生・森田武 (1995) 参照。
- 6) 李秉根 (1980) 参照。
- 7) 志部 (1988 : 12)、前間 (1909 : 10)、安田 (1964 : 25-26)、金美善 (1998 : 142-143) 参照。
- 8) 宋敏 (1986 : 38)
- 9) 桜井 (1941 : 230) によると、対馬旧巖原の藩士で、1884年以来釜山に居住し、釜山の語学校の韓語速成科に学び、後に、韓語教員及び尋常小学校の教員になった。山田 (1998 : 74-75) 参照。
- 10) 佐野 (2001 : 88) 参照。
- 11) 鄭光 (1996) で『物名』には ‘능금’ が ‘dokugumu’ と記録されていることを指摘している。
- 12) 『日韓善隣通語』については五十嵐 (1999 : 379) 参照。

参考文献

- 土井忠生・森田武 (1995) 『新訂国語史要説』、修文館。
- 五十嵐孔一 (1999) 「寶迫繁勝 (1880)、韓語入門과 『日韓善隣通語』 (書評)、「形態論」1-2.
- 李基文 (1978) 『(改訂版) 國語史概説』、搭出版社。
- \_\_\_\_\_ (1988) 「陰德記의 高麗詞之事に 대하여」『國語學』17、3-32. 搭出版社。
- 岸田文隆 (1999) 「漂流民の伝えた朝鮮語 一島根県高見家文書『朝鮮人見聞書』について」富山大学人文学部紀要」30.
- \_\_\_\_\_ (2000) 「표류민이 전하는 한국어」『21세기 국어학의 과제』、도서출판월인。
- 金美善 (1998) 「大阪市生野區 定住 在日 코리아인 一世의 日本語 運用」、국제고려학 제4호、국제고려학회。

『明治字典』における朝鮮語子音 ‘ㄴ’ の片仮名転写について (佐野)

- 前間恭作 (1909 / 1974) 韓語通. [京都大学文学部国語国文学研究室編、京都大学国文学会に収録].
- 朴基永 (1999) 『明治字典』의 한국어 표기에 대하여 —片假名전사표기를 중심으로—, 第161回朝鮮語研究會發表資料.
- 佐野三枝子 (1996) 「17・18世紀日本資料에 나타난 韓國語 研究」 서울大學校大學院碩士學位論文.  
\_\_\_\_\_ (2001) 「日本資料에 나타난 近代 韓國語의 研究」 서울大學校大學院博士學位論文.
- 宋敏 (1986) 『前期 近代國語 音韻論 研究』、國語學叢書 8 搭出版社.
- 志部昭平 (1988) 「陰徳記 高麗詞之事について—文祿慶長の役における 仮名書き朝鮮語資料—」 『朝鮮學報』 128、1-102.
- 鄭光 (1982) 「『明治字典』의 國語語彙에 대하여、—19世紀 國語 資料를 위하여—」、『徳成女子大學校 論文集』 11.
- 安田章 (1964) 全一道人の研究、京都大学文学部国語国文学研究室編、京都大学国文学会.